



医師不足地域を支える医師



共立蒲原総合病院
糖尿病・内分泌内科医長
古川 卓 先生

私は大学卒業後、県内の医療施設に勤務してきました。多くの先生方のご尽力のおかげもあり、どの施設も指導体制や労働環境が整っており、医師不足について強く意識する事はありませんでした。当院は、県内でも医師が少ないと言われる富士地域にありますが、上記の印象は決して変わりません。

当院は、富士市・静岡市・富士宮市の3市によって運営されている公立病院で、急性期病床・地域包括ケア病床・療養病床を有するケアミックス型病院です。私は内科医として、専門領域の糖尿病に加えその他のcommon diseaseの診療にあたり、急性期から慢性期まで一貫して治療を行います。一人の医師としてカバーする範囲は広いですが、各専門科の医師にコンサルテーションしながら、スキルアップしています。地域がら高齢者も多く、急性期の治療終了後もリハビリテーションを含めた十分な医療が提供されなければ、決して患者さんのより良い予後は期待できません。日本は超高齢社会であり、高齢者は病態が多岐にわたっています。一人ひとりの医師が幅広い知識を有し、急性期から慢性期にわたる総合的な視野を持つ必要があるのだと思います。地域医療の醍醐味とは、糖尿病診療で例えすと、HbA1c改善/合併症予防・治療といったoutcomeのみならず、患者さんのより良い生活といった真のoutcomeを目の前で実感できる事にあります。

一方で、医学生、若い先生方は、「医師不足地域」と聞くと、交代の医者がおらず、激務を強いられるなどの負の印象を持たれる方もいるかもしれませんが、決してそんな事はありません。当院も労働環境が十分に整っています。夜間当直や土日の救急対応は非常勤医師が対応し、十分な休息を取っています。私は小学生2児の父ですが、育児に参加し、プライベートの時間をしっかり確保しています。静岡県という自然に恵まれた環境で、ワークライフバランスの取れた充実した日々を過ごしています。静岡県ならびに当院に興味を持っていただければ幸いです。